

少しの勇気で

滋賀県 水口東中学校 3年 坪倉 奈美

「お手伝いしましょうか。」

それは、今まで私が言いたくても、ずっと言えないでいた言葉です。いつもその言葉はのどにつまり、飲み込んでしまっていました。なぜなら、まったく知らない人に自ら声をかける必要があるからです。小さい頃から人見知りで、恥ずかしがり屋であり、その上、勇気のない私には縁のない言葉でした。

しかし、そんな私が、ついに行動を起こすことができた日がありました。

学校帰り、いつものように電車に乗っていました。重たそうな荷物と自転車を持ったおばあさんが、その電車に乗っていました。私は、（そうか、自転車も電車に乗せていいんだっけ）と、なにげなく思っていると、そのおばあさんも私と同じ駅で降りました。改札まで行くのに、急な階段を上らなくてははいけません。そのおばあさんは、まさに自転車を抱え、そこを上ろうとしていました。

私は一度、そこを通り過ぎたのですが、やはり気になって、戻って手伝うことにしました。

「お手伝いしましょうか。」

このとき、やっとこの言葉を言えました。するとおばあさんは、驚くと同時にとても嬉しそうに、

「ありがとう。本当に助かるわ。」

と笑顔で答えてくれました。あの時のおばあさんの満面の笑みを、今も忘れられません。そのときから、「日頃の生活で、小さなやさしさを見つけてみよう」と思い、私なりに親切について少し意識をもつようになりました。私は、毎日のありふれた日常に、たくさんの親切が隠れていると気が付いたのです。

また私が電車に乗って出かけたときのことです。ベビーカーを押している女性が電車に乗りこもうとしていました。しかし、重いカートが電車とホームの間に挟まってしまい、乗せられず、困っているようでした。すると、電車に乗っていた男性がベビーカーを乗せるのを手伝い、電車が発車する直前に無事に乗せることができました。その女性には笑顔があふれていました。それだけではありません。男性にまで笑顔があふれていたのです。

「親切」には、たくさんの笑顔が隠れていると私は思います。親切にされた人だけでなく、親切にした人も、とても幸せな気持ちになります。私たちのまわりには、少し目を向けるとやさしい笑顔があちこちにあふれていると思います。しかし、少し前の私のように、困っている人を、見て見ぬふりしている人も多いのではないのでしょうか。少しの勇気と心がけで、変わっていけると思っています。日本中が、いや、この世界中が、いつかもっと大きなやさしさで包まれると私は信じています。